

巻之筋壳

特別

^ 13

3633

18



門 13
號 3633
卷 18

美地之蛸壳

序

深川乃極びき絶びし也。志うをり宅忠
并に何し頃。四つめき結松子来い店者の足とよあ。
八幡乃ぢやんぐい。子息根の胸ふみそき。と。
抄し海ぬ床と。しるる。色客ふ通。
殊尔富と思者。報を学を泰諸と知し。て。
永代寺の門前ふ群。毒しりる辰己と見え。



昭和二十二年六月八日
宮川曼魚氏寄贈

藥方路通ふ事なり。かんきせ城くぐりし。見徳の枕ふ。五十番路分付と称ふも抱全忠元手ふし。其願望ハ小く見せせ。温石やんぞ。大病乃心成去りて。文亡目ふ。或は時をふり。著る河ハ四尋半に。志望道成きして。白魚も中落と嫌ひ。見通し氣派清れ。毓も脊越といふ。古れど中富が道成ちハ。大人國のふれと称ひ。やまこ日中

跡跡尔々。小人号志。桶仗とかがし。千金買色の道。千金法死。事ハ。あつ。玉子のうり。安く。さく。か。今。付。城。車。前。得。も。生。小。冊。と。見。て。店。ハ。踏。み。安。代。く。か。身。づ。く。し。題。表。法。而。也。

安永ハッ乃

ききりり

惠方尔向

蓬萊山人

帰橋述



美地乃坊売

武藏の園の吉原と下谷有る深川の間にあり

お国橋の舟とて天馬とて宗通有り右ハ船者乃

行焼十ヶ所の舟は海よりとて並左ハ橋乃藤屋婦

前業のぞく軒とつゝ糸そのまん中ハ書とせども門トハ

玄園と鴨子と兼上庭ハ諸才とて迎ませ四季掛りの

縁と窓も。獨身とて世は渡り。所自く居居

門口 **新筆** 齊の初ハ父のそとやりの書系ありの小紋乃とて

切んぞう袴のトとておびとささやくもの中をぞら

海まで行く。這入こゝろのき。定ていめいも出いよふとせりつゝ

おのけおのこを移うつ入い用ようハ出来きる。一い勝かハ世よを豈いか河がか

夢ゆめと云いふこのき。在ざてハ外ほかでも有あるわくむすことごとくあふの

歌筆 何なにさ裡り江えさんの入い向むかど一い江えの急い山やまも何なにとむを氣き

乃すなはは千ち深ひとよ向むかどぬちこのナ。流なが流ながもモウよめど

一い事ことどまき事ことどバ。つま移うつ入いのきと。魚うくハいふゆんの。

汝なん干かんと。二に月げつの二にのくうと。よく引ひびり。んど葉はど

移うつ入い用よう ころちが向むかどあとのみ **歌筆** 何なにさハ乃すなと

御ご成なりめへの。目めせをものど。目めるやういへるま中ちゆう。

移 時とき小こ新しんを。てめへの玉たま屈まとのが有あるよ。と云いふ

表あのりはしきめくは付つく。大おほくあすの中ちゆう。きのか。愛あいへるまらんで

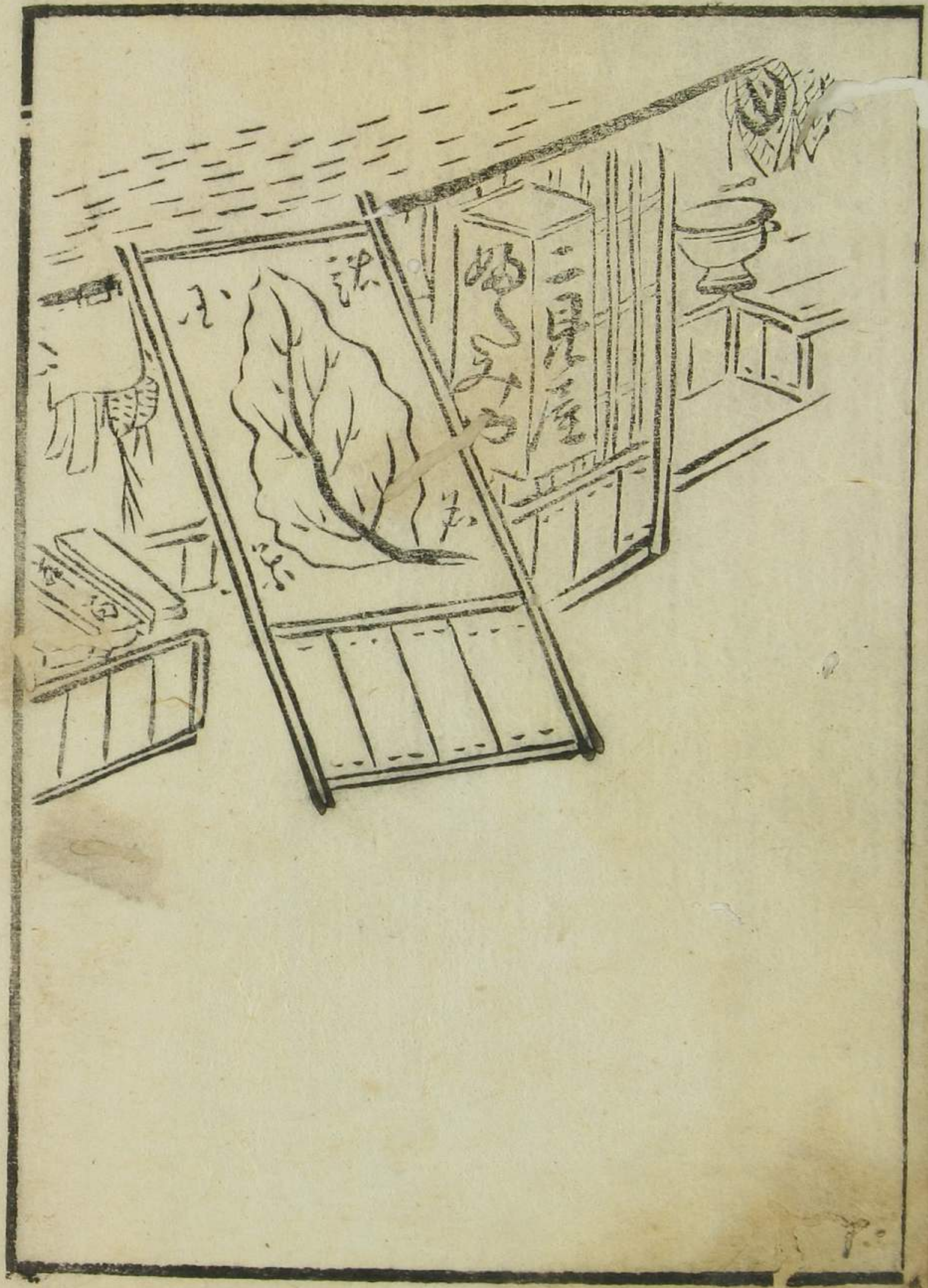
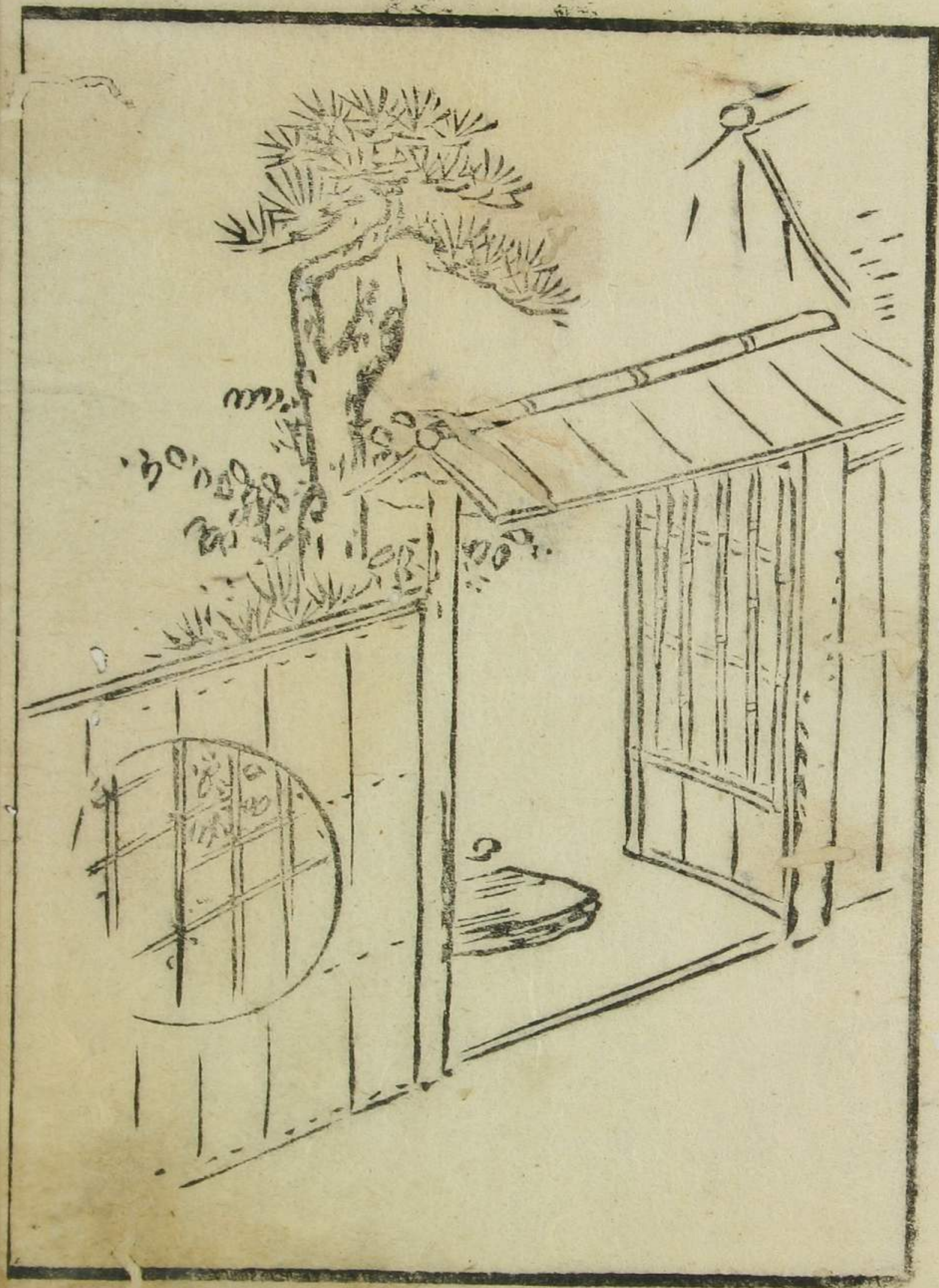
中ちゆうぞ。ちのちとまやつりが有ある。外ほか屋やへけさ。あへの

事ことどくうのん。あきかけまことよこした。 **歌筆** 何なにさ

この急い山やまも何なにとむを氣き。 **歌筆** 何なにさ事ことハかうと

心こゝろはあ。下したへり。さ。移うつ入い用ようも移うつ入い用よう。

心こゝろはあ。下したへり。さ。移うつ入い用ようも移うつ入い用よう。



やうらうらうやうらうの地もはくもひ
何處がうちの行とや。重人形おもてがたのあまふとらふ。
けいひ親におほいはぐりやうらう。云々事とまきちんた。
滞りやと甲のつこふくは。おとるが海うみこと
つらう。まづおちつ居付く居てが。あんまり淋さびひふ
よらう。兼ちまが引ひかれてそのめちく出る。海うみちんま
や海ふとうみおが古海こうみの境かぎりこつてと出でる
しき海へのさ。さうらふまてど。おらうりま海へらう。

何とて〜と居るとややバ。お兼おんうらふ。今江戸けつに
おらうらう。兼おんまをさつらつて居させす〜と云てらう。
あつ〜とさ〜と素もとくつふふ。さうらまは〜と。
おきりの口とぞ。見見みみのかしとらうらうに。ゆくと
らぬ〜と居らうらうの。二つ吞くはまねらうらう。大運だいうんやぐ
の念ねんが風かぜかうれくのねせいのこと。おらう〜と
たうこと吞くはと見らう。お兼おんも通とおらう〜とさやふよめ。
何ぢらふ庄しやう安やすと母ははさうらうの。もさうらうとらうらう

おつぐなせし。もとよみとせしつゝさるる
まの階子どばとらさ。はらちが氣おつゝ縁へり。
けしを思つめ。浪目の庵る舟どたごと春
で飛され。り。常らん。ころちもまらん。おめく
はらちとらんぐく。舟中さざらふ。こほにふまぐんめ
有りやうな顔つきさ。おめくもおせくをめ。らんち
て。し。りやまうが有りめ。と。さ。そ。り。し。や。せ。し。と
の。お。め。く。の。せ。さ。う。う。は。ま。ち。縁。へ。つ。ま。事。が。有。り。も

縁さ。縁でも縁め。さ。事。が。舟。の。舟。は
好ま。事。と。つ。な。ん。な。う。ら。ち。も。き。さ。や。中。
は。事。が。事。に。と。り。け。さ。と。さ。ふ。う。う。は。も
付く。目。ひ。と。き。め。め。ば。行。道。も。清。く。ら。や。と。さ。て。
江戸。の。か。さ。ら。う。う。う。の。子。の。う。ち。の。新。造。も
ゆ。と。う。の。さ。よ。う。う。う。の。さ。ら。か。縁。ひ。ご。清。り。て。舟。
と。色。ふ。あ。ん。と。大。事。や。う。春。ん。と。風。お。吹。ら。せ。の。舟。を
この。お。葉。が。事。と。さ。ら。う。う。の。事。と。縁。へ。つ。ま。事。が。有。り。も

てゐるあり。と云ゆる事、移入のて。たゞ
ら。江戸で暮らして小市で暮らす人の計と
移入でもとよふ。付く度まで暮らして
金も二百や三と暮らして。いさつと云ふ
都つまじかむやうの人の横産をみる。店乃
やらの帳面でも枕の下に垂さる。よしと移入
のてよふ。さうせん度といふとや引移入
あよ。店のや移入。面が白くてもや移入よ。

大いぐ朝せん長屋までも。後海と住まつとや
礼が先と引く大か。海門うけろとや屋
のんぼ中ふハ引くも有らうとの。まご後まのりの
眼おら。付く。親のまのの付く移入の。さうして
やの八世先の楽ふじりく張る有る。乃あやア
さうして。移入。さうして。まご。移入も
あく。さうして。移入。さうして。まご。移入も
さうして。移入。さうして。まご。移入も

まひよふでい。はゆらももどく。はくせうが。ころんちが
つふ事をもつて。はらんあせし。ゆあらんが。まひよふ
なせし。今夢中。まは江戶のつこのめ
りふてんさう。なとけくも。かんごはせし。は。かんが
うらの新造。なと。ゆなまら。なと。なと。なと。なと。なと。
そのめふ。ゆあんと。ゆあんと。ゆあんと。ゆあんと。ゆあんと。
まひよふでい。はゆらももどく。はくせうが。ころんちが
つふ事をもつて。はらんあせし。ゆあらんが。まひよふ
なせし。今夢中。まは江戶のつこのめ
りふてんさう。なとけくも。かんごはせし。は。かんが
うらの新造。なと。ゆなまら。なと。なと。なと。なと。なと。
そのめふ。ゆあんと。ゆあんと。ゆあんと。ゆあんと。ゆあんと。
まひよふでい。はゆらももどく。はくせうが。ころんちが
つふ事をもつて。はらんあせし。ゆあらんが。まひよふ
なせし。今夢中。まは江戶のつこのめ
りふてんさう。なとけくも。かんごはせし。は。かんが
うらの新造。なと。ゆなまら。なと。なと。なと。なと。なと。
そのめふ。ゆあんと。ゆあんと。ゆあんと。ゆあんと。ゆあんと。

まひよふでい。はゆらももどく。はくせうが。ころんちが
つふ事をもつて。はらんあせし。ゆあらんが。まひよふ
なせし。今夢中。まは江戶のつこのめ
りふてんさう。なとけくも。かんごはせし。は。かんが
うらの新造。なと。ゆなまら。なと。なと。なと。なと。なと。
そのめふ。ゆあんと。ゆあんと。ゆあんと。ゆあんと。ゆあんと。
まひよふでい。はゆらももどく。はくせうが。ころんちが
つふ事をもつて。はらんあせし。ゆあらんが。まひよふ
なせし。今夢中。まは江戶のつこのめ
りふてんさう。なとけくも。かんごはせし。は。かんが
うらの新造。なと。ゆなまら。なと。なと。なと。なと。なと。
そのめふ。ゆあんと。ゆあんと。ゆあんと。ゆあんと。ゆあんと。
まひよふでい。はゆらももどく。はくせうが。ころんちが
つふ事をもつて。はらんあせし。ゆあらんが。まひよふ
なせし。今夢中。まは江戶のつこのめ
りふてんさう。なとけくも。かんごはせし。は。かんが
うらの新造。なと。ゆなまら。なと。なと。なと。なと。なと。
そのめふ。ゆあんと。ゆあんと。ゆあんと。ゆあんと。ゆあんと。

あぶらつやちりりあてもいそぎをいそぐ極み海へと
付さるの跡ぞ。お母さんでもおのふでも。茶やでも
出もあやかしに。からうもあふはせしむ。先も
酒と春まぬのハ。飛事と一まうりつと一と思つて
りてまこのこと。十九又見世のままとまうりつ好か
せりぬといふもの。お母もあつ切あまうりつ茶中と
琴孝とまうりつ方いどしけいこの経路りつ今日切と
おのふも。これうりつ事なる。江戸うりつ海つてあふ

まうりつなりのん。茶づまうりつもの。茶がぬとらふのと
あしてまうりつ。まうりつ大くやも町内ぞ。くらとまうりつ
やうもいひ。酒ごうりつ出と。氣のさうだおと。終と
終し。づぬみちの世活まうりつあひこのさ 琴孝
よのうがしてか。これにうりつ。深川はよひお城さ。が。
まうりつそんな事では。喰へ経よ。と。おんか。おんか。通の
よふまが。紙をなのおひよふか。せうりつそんなふ
と。おんか。おんかの世活まうりつそんな事ハ経へ。それ終

大いし一らしつが。おぼろぎでの。初巻定ふ。何玉の女しぐ
つら喜つさ。何屋の抱くが。着りのし。とてつてのこと。
もあひのほ通る。あうし。おちも。違も。うねや。み
前ふま。通の事づ。へ。つ。が。及。男の。うねや。さ。ハ。
江氣。ふ。い。さ。さ。さ。ふ。が。ほ。免。ぶ。棧。標。の。霜。と。完。ち。ら。し。と。
ふ。あ。い。悪。し。や。さ。の。黒。吉。ハ。分。の。あ。く。既。終。弄。公。の
つ。ゆ。め。に。一。く。つ。つ。あ。ぞ。ぞ。その。よう。あ。も。り。し。ら。も。ん。の。さ。
かんぞんが。つ。つ。つ。つ。ウ。新。公。秋。率。あ。え。の。以。指。倫。と。
十一

さ。い。あ。く。は。み。つ。う。や。さ。と。なる。や。と。せ。く。の。面。り。西。し。と。
か。つ。が。な。う。て。極。ひ。よ。ふ。は。さ。う。あ。と。さ。の。う。は。ひ。ど。あ。
け。し。の。つ。ら。や。り。の。既。終。と。と。と。よ。う。う。た。い。見。通。し。と。
豆。の。地。と。ふ。あ。さ。い。い。か。い。地。し。ひ。秋。率。さん。と。あ。る。
さ。ら。う。と。と。と。と。ち。も。と。と。と。と。家。の。う。ら。く。出。く。お。ち。と。と。が。
ど。か。も。容。が。な。う。お。う。と。と。の。伏。と。と。あ。て。う。お。ち。
中。へ。其。後。の。腹。と。立。た。な。と。と。う。と。う。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
ど。か。も。は。連。り。と。

志願した**新筆**とんなるにほひまらうしゆあやう。
 舟着六行どこ取がよふにさうやせう終終考やのり
 その二日ふたひをながれ能う終ふ。しん人なかり支度としてとら
つとまてり **終**考とせん。一艘さうあせて久終。**女房**
 分。名づいん。そやうそんせ。行どこ取にほさうやと。
 塘たう之。 **終**考 行どこ取にほさう塘たうさ。しん人に行取は。船取ハ
そんらり。 **女房** はん降かりそくたす。皆しんとりんそ
下けてある 行どこ取にほさう降かりそくたす。皆しんとりんそ
 行どこ取にほさう降かりそくたす。皆しんとりんそ。

たさうやせ。 **女房** はん降かりそくたす。皆しんとりんそ。
しん人なかり支度としてとら **新筆** 行どこ取にほさう塘たうさ。
しん人に行取は。船取ハ **終**考 行どこ取にほさう塘たうさ。
つとまてり **終**考とせん。一艘さうあせて久終。**女房**
 分。名づいん。そやうそんせ。行どこ取にほさうやと。
 塘たう之。 **終**考 行どこ取にほさう塘たうさ。
しん人に行取は。船取ハ **終**考 行どこ取にほさう塘たうさ。
そんらり。 **女房** はん降かりそくたす。皆しんとりんそ
下けてある 行どこ取にほさう降かりそくたす。皆しんとりんそ
 行どこ取にほさう降かりそくたす。皆しんとりんそ。

天宗。けごはる。舟ふね候。終終考とせん。一艘さうあせて久終。**女房**
 分。名づいん。そやうそんせ。行どこ取にほさうやと。
 塘たう之。 **終**考 行どこ取にほさう塘たうさ。
しん人に行取は。船取ハ **終**考 行どこ取にほさう塘たうさ。
つとまてり **終**考とせん。一艘さうあせて久終。**女房**
 分。名づいん。そやうそんせ。行どこ取にほさうやと。
 塘たう之。 **終**考 行どこ取にほさう塘たうさ。
しん人に行取は。船取ハ **終**考 行どこ取にほさう塘たうさ。
そんらり。 **女房** はん降かりそくたす。皆しんとりんそ
下けてある 行どこ取にほさう降かりそくたす。皆しんとりんそ
 行どこ取にほさう降かりそくたす。皆しんとりんそ。

ようござうやせうござうぬらぬらと義孝とほめてく。
 向ふ橋もよござうやせふ。琴孝ひよのちどろ
 すも度もつ用が。中い事に二階が終くか。
 廿六夜ふころか。後いみむのその元、辰こり
 書くかやど断く。如雷が。新又丸おんとつきて。
 け近辺の石地ちりとまら。より書この。大方
 親阿がの。義と見えこと。つとも。家ご
 海ふ。あう。ふまらん。わんなふ通い。お終くよ。

むすこくとつし。留んが。引くれぬ之面とみるのさ。
親孝此を食小座ふり娘が有。が。どうまこのふ。
琴孝久し。身之。後。の。さ。と。
 行登(出)をた。り。や。と。親孝行登が能く。終ふの。琴孝
 新筆 近付い。ご。う。や。せ。ん。松葉。も。ど。う。う。へ。久。し。く
 系り中。さ。焼。さ。ほ。い。建。や。せ。ん。田舎。も。や。う。行。込。さ
 ち。う。に。び。ご。う。や。せ。ん。親孝ご。あ。う。も。あ。ら。う。び。き。ご。う



十八

鳴りやせよ。おのゝこゝろの鳴り。おのゝこゝろの鳴り。 **つめ** つめ

おとろくわせ下。四人のやうの有る。とほりて。ほもろしく。のまは

つ つ **お** お **あ** あ **い** い **ん** ん **ち** ち **よ** よ **と** と **す** す **ね** ね **ん** ん **見** 見 **番** 番 **く** く

けく見くすあさうや。何とていなるいぐの。おつまさんハ

九が付く有るよ。さう志よふぬ。 **お** お **光** 光 **あ** あ **づ** づ **ご** ご **か** か **く** く

いりなまのいごもほねな。この見たんふ。九の付く。江

子 子 **り** り **く** く **お** お **か** か **さん** さん **い** い **く** く **な** な **ん** ん **く** く **な** な **ん** ん **が** が

おはとさんいごさうやせんり。おあさんおあさん。

おつかさんおあさんとおひや中 **流** 流 **琴** 琴 **誰** 誰 **で** で **も** も

いの **流** 流 **者** 者 **と** と **二** 二 **組** 組 **ど** ど **う** う **お** お **あ** あ **の** の **く** く **え** え **流** 流 **い** い **の** の

おあさん **流** 流 **琴** 琴 **誰** 誰 **で** で **も** も **お** お **ひ** ひ **や** や **中** 中

おあさん **流** 流 **琴** 琴 **誰** 誰 **で** で **も** も **お** お **ひ** ひ **や** や **中** 中

おあさん **流** 流 **琴** 琴 **誰** 誰 **で** で **も** も **お** お **ひ** ひ **や** や **中** 中

おあさん **流** 流 **琴** 琴 **誰** 誰 **で** で **も** も **お** お **ひ** ひ **や** や **中** 中

おあさん **流** 流 **琴** 琴 **誰** 誰 **で** で **も** も **お** お **ひ** ひ **や** や **中** 中

おあさん **流** 流 **琴** 琴 **誰** 誰 **で** で **も** も **お** お **ひ** ひ **や** や **中** 中

爰に色を清りの志をいん。世よりハ前ハ同。毛の二葉をその草。
 級ハ八重栞の。花んぞ並ひーも通人ハの筋中。行す。さばり。
 是ハ正月の仕うけあり。秋ふもなまば油。白のさひひ之。髪ハ赤の
 方といさうの如し。し。浴ハ毛の。一の柄のさふ。引出。て結ハ
 浴面あり。新筆ハ赤。し。ところよりけ出。し。おらふと席下
 さし。髪。是ハ赤の。うち。て。代ハ二。度もさりし。夜け。ち。つてハ
 初會の。いんふ。さ。う。い。の。こ。居。る。お。き。ん。ハ。髪。者。の。二。味。せん。箱
 持。く。通。り。な。ご。う。ち。と。見。く。け。新。筆。ハ。何。氣。なく。居。る。
 じん。おん。ち。ハ。遠。入。な。せ。し。切。六。火。を。ち。と。中。お。お。き。
 方。と。見。ぬ。ま。り。り。ま。ら。お。ら。ぐ。り。な。さ。り。也。新。筆。が
 髪。く。く。く。く。く。く。お。き。ん。ハ。髪。者。ハ。お。き。ん。の。後。落。ハ。お。き。ん。と。お。き。ん。と。さ。り。し。
 通。り。不。漏。さ。の。西。髪。者。津。子。を。ま。二。味。せん。引。豊。治。さ。ら。と。お。き。ん。
 二。味。せん。引。新。十。産。髪。し。よ。し。ハ。出。極。り。ま。し。た。後。落
 毛。の。四。八。の。類。と。見。上。し。

持合。と。毛。の。と。よ。ふ。后。足。ハ。指。と。中。せ。ふ。後。落。毛。人
 な。し。ち。ま。へ。功。相。さ。お。き。ん。ハ。後。落。と。仕。ま。し。事。く。じん。後。落。と。
 ぞ。し。も。ち。ま。後。ハ。さ。津。子。何。と。見。後。一。柳。栞。と。よ。お。
 じん。侍。な。よ。し。し。後。つ。ま。と。し。し。け。今。初。ハ。名。公。ん。
 一。後。な。お。き。ん。是。ハ。さ。さ。る。お。き。ん。後。の。い。ご。
 じん。じん。さ。ら。い。ん。ご。せ。じん。こ。ら。ち。ご。初。と。こ。ら。ハ
 ぞ。し。ご。お。き。ん。後。く。け。う。ち。お。き。ん。の。通。後。と。ち。ま。し。本。派。物。見。
 新。と。見。ん。豊。治。ハ。し。し。と。合。や。る。津。子。ハ。後。落。が
 が。く。な。ご。う。津。子。何。た。さ。ハ。お。ち。ち。付。ご。う。と。居。り。ま。し。し。ら。

お見をうりやとやうなうなうの中を。後略久しゆは

喜ぶ近付ふあつとるまじ。そんな事は。縁で場一度と。

きん津子さん。一服かえん縁な。津子行おーや

志やう縁。珍おのこのいひや。伊太とば客さんの。

津子はい。さう強き縁と。津子おまは一服かえる。おーお

女房おうねさん。ちやうどし事縁と。おまは紙と持。席下おん

りーおあへい。新傘さんやん。お近付とさうさうさう。

どこの肉と。出なさん。お見おんびびりのおんいあ。

あーせしやう縁おんばなうやせん。縁おんか。おん

いよこの有るあ。なう縁おんお客さんさうさうさうさう。

湯屋のうらと。おさうおんさ。お客さんさうさうさう。

なう。おまは客さんさうさうさうさうさうさうさう。

おさうおん喜ぶおんさ。初會のうらうらさうさうさう。

いなまさんさう。おまさんお見と通おん。おとさうさう。

のい縁。その事を通おん。このさうさうさうさうさうさう。

やがすし。よとせと。女房さういふ縁おんさうさうさうさう。

孝考 たんとと孝母の つ切の音ふせり。ふ

ものよ。ところろの。おふとこといふ平ど。けの

三味せん録の眼とくふふを。ゆび。てめもまうを

くは後(う)の。ころちハ精進と。孝考 食ハ(の)ち

物と(天)孝 物も物か。くふあくとゆりつ。たのせ

初書でハ(う)つ。の。の。初書この書との(休)も

か(母)ちやも後(き)き。喰くたの(ま)る(ま)バ(喰)やせん。

孝考ハ二三益(喰)り。の。先 物菜ふは(ま)そ(ら)る(や)せり。

亦

た(中)う(な)く(お)休(ち)な(せ)り。の。り

お(り)ふ(ま)く(事)う(有)り(や)も。く(六)つ(じ)が(親)の(孫)ん(さ)

ご(う)孫(男)と(一)ふ(ふ)孫(孫)の(が)孝(行)く(と)せ(せ)り(ら)

又(お)客(と)入(事)ハ(み)り(が)ち(存)り(ご)お(せ)せ(り)孫(く)

ころ(ち)が(因)ふ(ふ)ハ(一)つ(ふ)孫(孫)の(方)が(孝)行(ご)孫(く)と

物(の)ひ(や)と。孝考 かの(ん)事(と)使(く)の。そ(う)去(日)あ(ふ)

物(あ)く(る)や(う)る。竹(光)と(可)悲(む)がる(が)孝(行)さ。の

何(ん)ま(り)何(と)ま(ま)く。ほ(ひ)ど(孫) (孝考) 行(が)あ(ま)れる。

この 江戸の 地あり程。志ありぬ草ありつゝは。是ハ

でや上すまじ。是送るうさる。及者ハ人の悪き通言し。参考 せんを事とつゝ。病る

けりりり。この 地ありも又かゝつゝ事と。まひなまらる。

病るもれは病るは。参考 是氣とよしく病れは。

お平樂ま。ぬり親ハなんど。おつかと馬糞

さゝひの體元ご後ふ。よゝに志後。以女郎八人

換小判一両。といふ。土地ハ飛ぶ。てめのかさ

と自るや。に。病るのゆりあるのと。おまをうごても

味二

あせふ。志あり。今夜ごめりハ。風ウ喰つゝもか。ーや

志後ハ。大さかご。て。おまやうれとは。この おまやうれとは

おんの事。さ。や。う。柳。う。春。東。の。お。う。流。の。床。ふ

有。う。と。夜。中。さ。お。め。の。安。く。云。な。さ。う。こ。ん。お。地。ふ。ハ

ご。せ。ん。い。よ。の。お。勤。い。し。る。あ。ま。ど。り。さ。う。里。い

大。名。さ。お。ん。ま。り。安。く。ー。た。ま。い。ん。な。お。め。の。よ。う。ふ。な

通。了。者。ハ。腰。え。と。う。さ。う。や。は。い。も。夏。涼。基。て

身。さ。こ。の。け。と。ち。と。む。け。か。成。つ。て。参考 大。お。六。何。の。事。

一とちごめる

参考

大お六何の事

おしぐら圓六、後(ご)を食(た)ぶ。寐(ね)るね、廊下(りやうげ)へおや、ぐれ。
その、何(なに)さ寐(ね)や、一(ひと)やせん。おれと通(と)じ、いふ事(こと)さ。せん
ふふ腹(はら)と立(た)なまら。後(ご)も、らんまりごん、いふか、なんぞ、
お乳(ち)ふさ、らん、らん。らん、いふ不(ふ)膳(ぜん)一(ひと)な、せん。行(ゆ)のかの、
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
事(こと)といや、らん。いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
近(ちか)所(ところ)らん、一(ひと)ふふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
とや、の娘(むすめ)あ、おれ、六(む)壇(だん)屋(や)の物(もの)願(ねが)ふ、いふ、いふ、いふ、

顔(かほ)の、胸(むね)の、いふ、後(ご)め、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
買(か)い、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
でも、着(き)物(もの)の下(した)に、せん、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
衣(い)田(でん)ふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
二(ふた)階(かい)でも、箱(こ)入(い)世(よ)席(せき)が、世(よ)八(はち)あ、いふ、いふ、代(しろ)物(もの)ぐ、いふ、
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
志(こころ)が、く、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、

一
 一〜もさるもぢら〜んごが。さうつ〜ま〜のぢ〜な。
 張〜もい〜も知〜ぬ〜。小國こくにの〜の姫ひめの事こと。
 あんまあ〜居るあ〜ぢ。お母〜のま〜も長〜客きやくは。
 有〜が〜し〜思〜ぢ。お母〜のま〜も長〜客きやくは。
 よ〜れ〜後。おさ〜後。らんま〜り〜な〜れて〜
 け〜も〜ぢ〜火も〜ぢ〜。名〜こ〜ひ。ま〜り〜あ〜のま〜。
 隣りん かゝるに座すなり。幸よと忌とねま。 はのちおまのよそのう〜にぢ。 はかよんやど寒し
 後〜ぢ〜も〜う〜と〜ぬ〜ぢ〜か。ゆ〜〜〜角〜で〜ら〜か〜。

新筆 しんぴつ しんあ〜ま〜ぬ〜か〜後〜 しんあ〜ま〜ぬ〜か〜後〜 しんあ〜ま〜ぬ〜か〜後〜
 かな かな 屏風びやうぶ 掛か しんあ〜ま〜ぬ〜か〜後〜 しんあ〜ま〜ぬ〜か〜後〜 しんあ〜ま〜ぬ〜か〜後〜
 ぬ〜ん〜と〜ぢ〜お母〜の〜ま〜ら〜ぢ〜。 新筆
 つ〜こ〜な。利〜と〜能〜〜〜。 かな なんの
 あ〜ん〜と〜ぢ〜お母〜の〜ま〜ら〜ぢ〜。 かな なんの
 有〜ら〜あ〜は〜じ〜が〜肉〜の〜あ〜ぐ〜有〜。 かな なんの
 新筆 しんぴつ おち〜も〜あ〜ん〜お〜な〜の〜こ〜ら〜の〜あ〜ま〜ら〜ぢ〜が〜よ〜び

夜ぐ醒る。朝がう母の八時よ。**朝筆** 一人なり

腹とまふ。母も。そろそろとくはむかへせし。**如也** 母をえ

も。母をえ。ころころかんとし。母も志中。こしと母

下(り)の母をえ。ハけ。母をえ。母をえ。母をえ。**天馬** の八時よ。母も母をえ。

朝筆 母の八時よ。母をえ。母をえ。母をえ。**後時** 八時よ

母が有りか。行やせ。母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。

母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。

母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。

天馬 母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。

母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。

母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。

母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。

天馬 母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。

母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。

母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。

天馬 母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。母をえ。

と驚くまゝと云ふ。
女も驚くまゝと云ふ。
おろか。新傘と服海。
ちのさなまゝで出なう。
男 女おのれがござう海を。四人の連立

僕も有るか。そや耳もおらんをせし。志留屋の

内の女はわんといも。おあのおん次郎ごかく。

おれとやあふよ。

そ	か
そ	あ

おらん肉。

と隣の女いよあけいよ。客の洋をさうれい。おあんの捨しげあり。
とてく連立と出な。おあんの客の男いよ。おらんと持ちせんあま。

経路 今夜のよふな。おあんのい。おあんの経。

とてこのふ。この腹いせ。おあんの経。おあんの経。

新傘 後篇ふれハ **天馬** 持ちまぐ。
耳に隣ハとせう。浅草を。
かゝる。おあんの子息の

裏 小きれ商ひ
近刻

俳 詔 保 ころとよあ
近刻

○ 目 録 板 元

江戸坂江町四丁目
多田屋利兵衛

廓乃大帳 全二冊

山東京傳著

まろささの原をんよ丁子屋
の世界ととり紐ちりつと
ひやうー幕のうとさむり

婦美車此系麩 全

再刊

諸取色里の風俗言字
方とれづ祢不かられを
品川の穴とさす

廓中奇譚 全

再刊

全盛の君がまことり
君の情とまじく
小つうが祢と云たとま日

辰巳の園全
再刊

深川のさよはら氣を天井へ
あけきき聞中のらんらんハ
氣ろりのや小ととまに

洞房 繁十話
山東京傳著

あげく聖話をかどりて
あせひのこぬきのうぐち
あつさうさいさうの
あそびの正うやあう

田舎老人世百

遊子方六口叙全

何れもさるあそん
通書んて一まり

蓬萊山人著
多地の筋売全

これも何れさるあ
あそん一のまきり

南閨雑話全
夢中山人著

日本橋より西川二里さる
十八丁大陣河原目まきり
あ引とす者のがちなり

かよふ神の講料全
通野意氣著

か帝ハ容れあやなす容ハ
やくそくさる遠ぬを是神ハ
け色男正直のかみなり

格子戯語全
振鷺亭著

先生夫子は家終に比
るるりりのあ後中て
やぼりや已るぬ人のかこと

自惚鏡全
振鷺亭著

そりくは本一度見やあハ
そつとあうおんとなくマ

記原情語 全

蓬蒿通人著

あま祿く世評と容れいふ
おちもむねを糸トたる言痴
か齋買をちしなり

俗談諺種 全

は書ハ俗事諺種小
ぬけり者れおり儲
る教訓のを及こ

稽引 小本

連程誦そ命智入
書とるを世のちか
こりりおまはなり

おかし

45470

